

令和 7 年 度 事 業 報 告

(自 令和 7 年 4 月 1 日～至 令和 8 年 3 月 31 日)

年月日	事業名	開催場所	摘 要
令 7. 6. 2	理事会 (第 1 回)	KKR ホテ ル東京	令和 7 年度第 1 回理事会を開催。 出席者：理事総数 14 名中、出席理事 12 名（日高邦彦氏、坪井裕氏、横山明彦氏、菊地康二氏、寒川哲臣氏、富岡勇人氏、中嶋哲也氏、平井淳生氏、平栗健二氏、松井利行氏、村上和夫氏、米川明之氏）。 欠席理事 2 名（齋藤祐樹氏、富岡義博氏）。 出席監事 2 名（仲田一元氏、八島恵子氏）。 理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 6 年度第 4 回理事会（令和 7 年 3 月 4 日開催）の議事録を確認した。 [議事] ・審議事項 1 令和 6 年度事業報告（案）承認の件 令和 6 年度事業報告（案）を承認。 ・審議事項 2 令和 6 年度計算書類等（案）承認の件 令和 6 年度計算書類等（案）を承認。 ・審議事項 3 任期満了及び辞任に伴う評議員事改選の件 令和 7 年度 6 月期の役員等の選出にあたって、評議員 1 名が令和 7 年 6 月をもって任期満了となること、及び評議員 2 名より辞任・交代の申し出があったことが報告され、新評議員候補者の情報が示された。審議の結果、新評議員候補者 3 名全員の推薦が了承された。 ・審議事項 4 定時評議員会の招集の件 以下の定時評議員会招集を承認。 (1) 日時：令和 7 年 6 月 17 日(火) 15:00～16:00 (2) 場所：KKR ホテル東京 11 階 朱鷺（東京都千代田区大手町 1-4-1） (3) 目的である事項等 i) 令和 7 年度事業報告承認の件 ii) 令和 7 年度計算書類等承認の件 iii) 任期満了及び辞任に伴う評議員選任の件 ・審議事項 5 新賛助会員ご入会の件 以下の 2 つの法人・企業からの賛助会員入会の申し出につき、承認された。 一般財団法人 電力中央研究所、本田技研工業株式会社
令 7. 6. 17	評議員会	KKR ホテ ル東京	令和 7 年度定時評議員会（令和 6 年度決算書類の承認）を開催。 出席者：評議員 17 名中、出席評議員 15 名（井出育夫氏、上間功也氏、太田光昭氏、大淵一央氏、荻田恭之氏、佐々木昭悟氏、篠田幸男氏、島田尚江氏、蝶野正浩氏、津田健一郎氏、服部正典氏、藤井勝紀氏、松尾智弘氏、吉岡靖浩氏、吉田 隆氏） 他に、当法人監事・仲田一元氏が監査報告人、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。 欠席評議員 2 名（寺西裕之氏、福山満由美氏）。 議長に上間功也氏を選出する。本評議員会の議決は定足数（評議員の過半数）を満たしていることを確認した後、議事録署名人に津田健一郎氏、服部正典氏を指名した。

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			議事に先立ち、令和 6 年度定時評議員会議事録（令和 6 年 6 月 20 日開催）を確認した。 〔議事〕 ・審議事項 1 令和 6 年度事業報告承認の件 専務理事から、令和 6 年度事業報告のポイント（第 72 回電気科学技術奨励賞の選定並びに贈呈式、第 62 回電気科学技術講演会）についてそれぞれ説明。その他の活動として、電気科学技術奨励賞分類部会を開催したほか、媒体の特長（Web サイトの迅速性、印刷媒体の品質・閲覧性）を活かした情報発信に努めたこと、さらに、賛助会員、寄附者への働きかけによって賛助会費と寄附の維持に努めたことを報告した。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項 2 令和 6 年度計算書類等承認の件 専務理事から、令和 6 年度計算書類等を詳細に説明。仲田監事から監査報告及び所感を得る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項 3 任期満了及び辞任に伴う評議員選任の件 専務理事から、現評議員 1 名が、令和 7 年 6 月をもって任期満了となる旨、また現評議員 2 名より辞任・交代の申し出があったことを説明。今回、改選の対象となる新評議員候補者 3 名の情報が示された。 慎重審議の結果、新評議員候補者全員の選任が承認された。選任が承認された新評議員候補は以下のとおりである。 〔新評議員〕（五十音順） 太田隆之氏（富士通株式会社） 松浦英典氏（株式会社 安川電機） 元島仁志氏（中部電力パワーグリッド株式会社） 〔退任評議員〕（五十音順） 大淵一央氏（前富士通株式会社） 松尾智弘氏（安川電機） 井出育夫氏（中部電力パワーグリッド株式会社） 〔報告事項〕 i）第 63 回電気科学技術講演会の開催について 専務理事から、第 63 回電気科学技術講演会を、当法人と東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究 アライアンス（APET）との共催により、8 月 5 日（火）に実施することになった旨を報告。 決定事項を以下に記す。 〔第 63 回電気科学技術講演会〕 日時：令和 7 年 8 月 5 日（火）14：30～17：00 会場：オンライン開催 テーマ：産業現場（設備業務）における DX－AI・仮想空間の活用－ 講演者：相馬 知也氏（株式会社 Argopilot） 出町 和之氏（東京大学大学院） 大橋 洋輝氏（株式会社日立製作所）

年月日	事業名	開催場所	摘 要
令 7. 7. 8	分類部会	KKR ホテル東京	第 73 回電気科学技術奨励賞応募作分類部会を開催。 出席者：分類部会委員 4 名全員（栗田智久氏、香月嘉史氏、中村浩氏、平栗健二氏）が出席。 他に、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。 議事：第 73 回電気科学技術奨励賞応募作の分類分けについて 香月嘉史氏が座長席につき、第 73 回（令和 7 年度）電気科学技術奨励賞の応募作（受賞候補）54 件（144 名）の審査 5 分野（電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係）への分類分けについて審議した。 受賞候補による希望分野、及び応募作の内容に基づき、応募作の審査分野を、それぞれ、電力・エネルギー関係 14 件、産業・交通関係 11 件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係 15 件、情報・通信関係 12 件、教育関係 2 件とすることで委員の意見が一致し、7 月 15 日に開催される第 1 回審査委員会に提案することになった。
令 7. 7. 15	顕彰 （第 73 回 奨励賞第 1 回審査 委員会）	KKR ホテル東京	第 73 回電気科学技術奨励賞第 1 回審査委員会を開催。 出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員 20 名中、出席委員 15 名（代理出席含む）。 欠席委員 5 名。 7 月 8 日開催の分類部会による提案のとおり、応募作 54 件の審査分野を、電力・エネルギー関係 14 件、産業・交通関係 11 件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係 15 件、情報・通信関係 12 件、教育関係 2 件とすることが承認され、速やかに審査を開始することを決定した。 審査委員 20 名（委員長、副委員長を除く）を 5 分野に分け、各委員は、それぞれ担当分野の書類審査（基礎審査）を行い、審査結果（基礎審査表）を 8 月 29 日までに事務局に提出することになった。
令 7. 8. 5	講演会	オンライン形式	「第 63 回電気科学技術講演会」を開催。 「産業現場（設備業務）における DX－AI・仮想空間の活用－」をテーマとし、オンライン形式で実施した。 〔主催〕 公益財団法人 電気科学技術奨励会／東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究 アライアンス（APET）（2 団体共催） 〔後援〕 一般社団法人 電気学会、株式会社 オーム社 〔講演内容〕 ○講演 1 「生成 AI 時代の産業 DX －保全・保安のスマート化と人材戦略の最前線－」 相馬 知也氏（株式会社 Argopilot 代表取締役社長 JEITA スマート保安に係る検討会 元主査） ○講演 2 「原子力保全への AI 利用」 出町 和之氏（東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻 准教授） ○講演 3 「産業現場におけるメタバース・AI の活用事例と展望」 大橋 洋輝氏（株式会社日立製作所 研究開発グループ Digital

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			Innovation R&D 先端AI イノベーションセンタ 主任研究員) 講演では、3名の講演者が、それぞれの専門の立場から、産業現場（設備業務）におけるDXの最新動向について、実例を交えながら紹介した。 株式会社 Argopilot の相馬知也氏の講演では、産業現場におけるDXの全体像、インフラ・設備保全におけるデジタル技術の役割、DX推進の現状と今後の展望等について解説して頂くとともに、現場の変革を支えるデジタル人材の役割や、生成AIがもたらす革新と現場への応用可能性、生成AIとDX推進の課題と今後の展望について解説して頂いた。日本と東南アジアでのDXへの取り組み体制の違いについても紹介して頂いた。 東京大学大学院の出町和之氏の講演では、原子力産業における（生成AIを含む）AIの適用状況について、海外の状況を含めて解説して頂いた。AIの原子力への応用の現状と今後の展望、設備保全における異常機器の検知と対応策提案のためのAI開発について解説して頂き、大規模言語モデル（LLM）を活用した保守管理文書の生成や、複数の種類の情報を統合して処理するマルチモーダルAIについても紹介して頂いた。 日立製作所の大橋洋輝氏の講演では、現場外を含めた関係者が、情報を共有することで現場業務を迅速に進めることができる「現場拡張メタバース」の開発について解説して頂いた。エネルギー分野での施工管理や、鉄道、製造分野での保守・保全での活用事例について紹介して頂き、現場作業における作業効率・安全性の向上、及び、技術共有・継承への貢献について解説して頂いた。 本講演会の参加者は397名で、業現場（設備業務）におけるDXに対する関心の高さを伺い知ることができた。
令 7. 9. 12	顕彰 (第73回 奨励賞第 2回審査 委員会)	KKR ホテ ル東京	第73回電気科学技術奨励賞第2回審査委員会を開催。 出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員20名中、出席委員17名（代理出席含む）。 欠席委員3名。 〔第一次審査（基礎審査）〕 出席委員（委員長、副委員長を除く）が、審査5分野（電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係）に分かれて第一次審査（基礎審査）を行った。 各分野での議論の結果、電気科学技術奨励賞候補として、第二次審査に合計27件の受賞候補を推薦することになった。 〔第二次審査（総合審査）〕 第一次審査終了後、全審査委員による第二次審査（総合審査）に移った。議論の結果、27件（70名）の受賞を決定した。 続いて、受賞作の中で最も高い評価を受けた1件を文部科学大臣賞に決定し、それに次ぐ評価を受けた1件を電気科学技術奨励会会長賞に決定した（文部科学大臣賞は、群馬大学、ペイラー医科大学の共同提出による応募作、電気科学技術奨励会会長賞は、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構、原子力エンジニアリング株式会社の共同提出による応募作）。 最後に、事務局より、贈呈式を11月25日にKKR ホテル東京において実施する予定である旨が述べられた。

年月日	事業名	開催場所	摘 要
令和 7. 9. 26	理事会 (第 2 回)	KKR ホテル東京	令和 7 年度第 2 回（臨時）理事会を開催。 出席者：理事総数 14 名中、出席理事 11 名（日高邦彦氏、坪井裕氏、横山明彦氏、菊地康二氏、齋藤祐樹氏、富岡勇人氏、中嶋哲也氏、平井淳生氏、松井利行氏、村上和夫氏、米川明之氏）。 欠席理事 3 名（寒川哲臣氏、富岡義博氏、平栗健二氏）。 出席監事 2 名（仲田一元氏、八島恵子氏）。 理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 7 年度第 1 回理事会（令和 7 年 6 月 2 日開催）の議事録を確認した。 [議事] ・審議事項 1 第 73 回電気科学技術奨励賞受賞者決定の承認の件 令和 7 年度の第 73 回電気科学技術奨励賞の受賞者を、去る 9 月 12 日（金）の同賞審査委員会で決定し、本理事会において諮ったところ、全員一致で承認した。 ・審議事項 2 第 73 回電気科学技術奨励賞贈呈式の開催形式の件 専務理事から、第 73 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、来たる 11 月 25 日（火）16 時 00 分より開催の予定だが、長らく会場としてきた学士会館が、再開発のために昨年末に閉館したため、今年から、KKR ホテル東京を会場とすることになった旨を説明。新会場のキャパシティに加えて、今夏に入り、新型コロナウイルスの感染者数がまた急増していることもあり、過密にならないように配慮する必要があることが述べられた。そこで、本理事会にて、同賞贈呈式の開催形式、開催規模等を議論して頂きたい旨が述べられた。 議論の結果、第 73 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、以下の開催形式、開催規模で開催することが決定、承認された。 ○対面開催とする。 ○受賞者に加えて、来賓を招待する。 ○ただし、過密にならないよう、来賓の人数を制限する。 ○受賞者に、電気科学技術奨励賞、文部科学大臣賞、電気科学技術奨励会会長賞を授与する。 ○受賞者は 1 件ずつ壇上に登壇して頂き、賞状と副賞の贈呈、さらには、記念撮影を行う。 ○文部科学大臣賞については、文部科学省の方に会場にお越し頂き、受賞者に直接、賞状の授与を行うことを願います。 ○4 省庁（文部科学省研究振興局長、総務省国際戦略局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、経済産業省資源エネルギー庁長官）より来賓を招待し、祝辞を賜ることを願います。 ○文部科学大臣賞受賞者に、受賞作の内容のプレゼンをして頂く。 ○贈呈式終了後に別室で祝賀パーティーを行う。 [業務報告] i) 第 63 回電気科学技術講演会の報告 専務理事から、第 63 回電気科学技術講演会を 8 月 5 日（火）、オンライン形式で開催したことを報告。テーマを「産業現場（設備業務）における DX —AI・仮想空間の活用—」とし、産業現場での DX の最新動向として、AI 技術や仮想空間を産業現場（設備業務）で活用する動きに焦点を当てて、3 人の講演者に解説をして頂いたこと、及び、インターネットを通じて 397

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			名の参加者があり、盛況であったことが報告された。 ii) 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告 定款第 27 条、及び法人法 90 条、197 条により、職務の執行状況の報告が義務付けられていることに鑑み、令和 7 年 3 月～8 月の執行状況について報告。併せて、代表理事、業務執行理事、事務局長の意見交換が随時行われていることが報告された。
令 7. 11. 25	顕彰 (第 73 回 電気科学 技術奨励 賞贈呈 式)	KKR ホテ ル東京	第 73 回電気科学技術奨励賞贈呈式及び祝賀パーティーを開催。 式典：16:00～17:40 祝賀パーティー：18:00～19:25 場所：KKR ホテル東京（東京都千代田区大手町 1-4-1） 式典の内容 (1) 会長式辞 (2) 電気科学技術奨励賞委員会審査報告 (3) 電気科学技術奨励賞贈呈 (4) 文部科学大臣賞贈呈 (5) 電気科学技術奨励会会長賞贈呈 (6) 祝辞 (7) 受賞者総代答辞 (8) 文部科学大臣賞・内容紹介 贈呈式は、16:00 より開始され、当法人の日高邦彦会長が式辞を述べ、さらに審査委員会委員長として審査結果の報告を行った。引き続き、受賞者全員に電気科学技術奨励賞の賞状と副賞（雷神像の記念楯、賞金）の贈呈があり、さらに、文部科学大臣賞の贈呈、電気科学技術奨励会会長賞の贈呈と進んだ。 各賞の贈呈の後、来賓の祝辞（文部科学省研究振興局長、総務省国際戦略局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、経済産業省資源エネルギー庁長官）が披露された。 その後、全受賞者を代表して、文部科学大臣賞受賞の群馬大学 橋本誠司氏が答辞を読み上げた。続いて、バイラー医科大学 栗田伸幸氏により、大臣賞受賞作の内容が解説された。 文部科学大臣賞受賞作の解説をもって、贈呈式は滞りなく終了した。 贈呈式終了後、18:00 より、祝賀パーティーが、昨年に引き続き、受賞者とご来賓を交えて開催された。横山明彦理事長の開会の挨拶と乾杯の音頭でスタートし、参加者は、それぞれ思い思いに歓談し、受賞を喜び合った。19:20 過ぎ、坪井裕副会長により中締めが執り行われ、盛会のうちに終了した。 本贈呈式の出席者は、受賞者・来賓を含め、119 名であった。
令 8. 2. 10	分類部会	KKR ホテ ル東京	令和 7 年度（臨時）分類部会を開催 出席委員：分類部会総数 4 名中、出席委員 3 名（栗田智久氏、中村浩氏、平栗健二氏）。 欠席委員 1 名（香月嘉史氏）。 他に、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。 〔議事〕推薦規定、及び審査における選考要領の一部改正について 専務理事から、近年、企業や法人の組織改正等が著しくなっており、「同

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			一の企業や団体」の定義が難しくなっていること（多数の会社から成るグループ企業や電力事業者の分社化等）、定義を明確にしたとしても、グループ企業や分社化した電力事業者の場合、グループ全体の推薦件数を管理す組織（部署）がない場合、組織間で調整して頂くことをお願いするのは現実的ではない旨を説明。そこで、臨時の分類部会（本分類部会）を開催し、推薦規定、及び審査における選考要領の一部改正について検討して頂きたい旨が述べられた。 議論の結果、決定した改正点を以下に記す。 ① 推薦規定 「３．贈賞候補者推薦の範囲」の（ハ） 「（ハ）同一の企業や団体からの推薦テーマは３件以内とする。ただし、同一分野からは１件とする。」 から、「ただし、同一分野からは１件とする。」の文言を削除する。 ② 選考要領 〔運用細則〕の「３．基礎審査ならびに総合審査の方法」 「3.1 贈賞件数について」 「ただし、同一の企業や団体からの贈賞件数は、全体で３件以内とする。」の文言を加え、 「3.1 贈賞件数について 総贈賞件数ならびに各班の贈賞件数は、推薦件数の約 50%を目安とする。ただし、同一の企業や団体からの贈賞件数は、全体で３件以内とする。」とする。 本分類部会で決定した改正内容は、令和８年度（第 74 回）の電気科学技術奨励賞の推薦（応募）様式に反映されている。
令 8. 3. 3	理事会 (第 3 回)	KKR ホテル東京	令和 7 年度第 3 回理事会を開催。 出席者：理事総数 14 名中、出席理事 12 名（日高邦彦氏、坪井裕氏、横山明彦氏、菊地康二氏、齋藤祐樹氏、寒川哲臣氏、富岡勇人氏、中嶋哲也氏、平井淳生氏、松井利行氏、村上和夫氏、米川明之氏）。欠席理事 2 名（富岡義博氏、平栗健二氏）。出席監事 2 名（仲田一元氏、八島恵子氏）。 理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 7 年度第 2 回（臨時）理事会（令和 7 年 9 月 26 日開催）の議事録を確認した。 〔議事〕 ・審議事項 1 令和 8 年度事業計画書（案）の件 専務理事から、令和 8 年度（令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）の事業計画として、主な事業（１．第 74 回電気科学技術奨励賞の贈呈、２．第 64 回電気科学技術講演会の開催、３．媒体の特長を活かした情報発信、４．リソース（財源、人的資源）の安定確保）について各項目別に説明し審議に入る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項 2 令和 8 年度収支予算書（案）の件 専務理事から、事業計画に基づく令和 7 年度収支予算書（案）について、経常収益、経常費用等を勘定科目ごとに詳細に説明する。物価の上昇が続くなど、厳しい経済情勢の中、賛助金・寄附金を主な財源とする当法人が経常

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			収益を維持するのは容易ではないが、賛助会員・寄附者の維持・拡大による財源の安定確保に努めることで収支のバランスをとったこと、加えて、資金調達及び設備投資の見込みはないことが説明された。仲田監事から、同収支予算書（案）の所感を賜った後、審議に入る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項 3 第 74 回電気科学技術奨励賞推薦候補募集に関する件 専務理事から、同審議事項の概要を説明する。推薦候補募集の書類を全国の電力会社、電機関連会社、各種団体、研究施設、大学・工業高専等へ送付して周知を図るほか、Web サイトを通じての告知、応募の促進に有効と思われる対象者に向けた電子メール等による情報発信を行うことが説明された。令和 6 年度の第 72 回電気科学技術奨励賞の推薦募集より、特に、教育分野の応募様式を改善し（情報量を増やし）、教育に携わる方々が、より応募しやすい内容としていることが述べられ、令和 8 年度の推薦募集においても、この改善を継続することが説明された。また、令和 8 年 2 月 10 日開催の令和 7 年度（臨時）分類部会において審議・承認されたことを受け、推薦規定及び選考要領を、以下のとおり改正することが説明され、審議に入る。 ① 推薦規定：同一の企業や団体からの推薦テーマについて、同一分野から 1 件とする制限を削除 ② 選考要領：同一の企業や団体からの贈賞件数は、全体で 3 件以内とする文言を追加 慎重審議の結果、原案が承認された。 ・審議事項 4 第 64 回電気科学技術講演会の実施について 専務理事から、第 64 回電気科学技術講演会を、以下の内容で実施することが提案された。 [提案内容] ○令和 3 年度～令和 7 年度（第 59 回～第 63 回）の電気科学技術講演会に引き続き、東京大学工学系研究科電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス（APET）との共催で実施する。 ○夏期（7 月後半～8 月）の開催で検討する。 ○オンライン形式での開催を基本とする。 ○以下のテーマで検討する。 電力と情報通信の融合（連携）の動向について解説 ○講師（講演者）は、最大 3 名で検討する（官庁・メーカー・各種法人等、組織のバランスに配慮する）。 ○講演時間は、最大 150 分（2 時間半）とする。 ○奨励会の予算から、1 人当たり 20,000～30,000 円の謝礼を支払う。 慎重審議の結果、原案が承認された。 [業務報告] i) 役員等の改選スケジュールについて 専務理事から、今年度（令和 7 年度）で当法人の理事全員が任期満了となるため、改選（選任）の手続きが必要になる旨を報告し、次年度（令和 8 年度）の役員等の改選スケジュールおよび必要な手続きが説明された。 役員等の改選（選任）については、6 月 9 日（火）開催予定の理事会で、理事長が役員等候補者のリストを報告し、6 月 25 日（木）の評議員会で選任するので、任期満了となる役員等は、選任のために必要な書類を期日まで

年月日	事業名	開催場所	摘 要
			に理事長に提出することが確認された。 ii) 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告 専務理事から、定款第 27 条、及び法人法 90 条、197 条により、職務の執行状況の報告が義務付けられていることに鑑み、令和 7 年 9 月～令和 8 年 2 月の執行状況について報告。併せて、代表理事、業務執行理事・事務局長の意見交換が随時行われていることが報告された。

以 上